NEWS 子育て支援を考える 第２１号

＊＊

「情報のネットワーク」と「人のネットワーク」
－「かるがも・ねっと」　この１年－

「ネットワーク」というとすぐに頭に浮かぶのが「情報のネットワーク」です。「インターネット」という「情報のネットワーク」が身近なものとなっているからでしょうか。

「かるがも・ねっと」のこの1年を振り返ってみますと、「情報」に関わる活動が目立っていたように思います。昨年（2007年）6月の第1回の学習会で「今後の学習課題を探る」ことをしましたが、そこで出された課題が「情報」でした。それを受けて、7月には「ちゃんと使える子育て支援情報～その内容と提供の仕方を考える～」と題した学習会を開きました。その後、9月には、「情報」を通じて見えてくる今の子育ての現状と課題を知ろうと、「育児雑誌から今の子育てを考える」学習会を開催しました。子育て支援に携わる者として、子育てに携わるお父さんやお母さんなどが、どのような情報環境に暮らし、どのような情報をもとに子育てを行っているかを把握し、それを踏まえてどのような情報をどのように提供していったらよいかを学ぶことは、重要な学習課題であったと言えましょう。

「かるがも・ねっと」が、本格的に「情報の提供」に乗り出したのもこの間の大きな出来事でした。「かるがも・ねっと」編集、市の子育て支援室発行で昨年の1月から始まった「つくば子育てカレンダー」の提供は、順調に回を重ねてきています。昨年度の途中からは、公民館や児童館には電子メールで配信されるようになり、まさに、「情報のネットワーク」の上を流れるようになっています。

「かるがも・ねっと」も、この4月にはホームページを立ち上げました。「学習会」のお知らせや報告、「ニュースレター」の公開などをするだけでなく、子育て・子育て支援に関連するサークル・団体を紹介したり、各団体・サークルの催し物などを案内したりしています。もちろん、「子育てカレンダー」も掲載しています。「かるがも・ねっと」が「情報のネットワーク」としての意味をもってきたと言ってよいでしょう。

今日の子育て・子育て支援において「情報」はますます大きな意味を持ちつつあります。市の「子育て支援室」は、昨秋、インターネット上に「つくば市子育て支援情報システム」を開設しています。さらに、今年の3月、「ままとーん」編集による「子育てハンドブック」の発行もしています。「子育て支援室」も「情報」を核に精力的な支援に乗り出していると言えましょう。「かるがも・ねっと」としても、今後、さらに情報の内容や提供の仕方を工夫して、身近にして有効な「情報のネットワーク」として活動していくことが必要だと思います。

ところで、「ネットワーク」には、「情報のネットワーク」に加えて「人のネットワーク」としての側面があります。この1年、「かるがも・ねっと」は、前者の活動を充実させてきました。しかし、振り返ってみますと、後者の活動が十分に展開できずにきたように思います。もともと、「かるがも・ねっと」は、「顔の見える関係」「お互いさま」をキーワードに、「人のネットワーク」の充実を図ることを目的にしてきました。子育ての支援について話し合ったり、相談し合ったり、連絡し合ったり、助け合ったりするネットワークであろうとしてきました。人のつながりができ、日常的にそうしたかかわり合いが行われるようになっていればいいのですが、たとえば、「学習会」をとってみても、参加する人の数が減ってしまっています。「お久しぶり」などという挨拶が交わされたり、「しばらく会っていないけど・・」と人の消息にかかわる話題が会話のなかに出てきたりもしています。「情報のネットワーク」としての活動が表に出て、その分、「人のネットワーク」としての活動が後退してしまっていなければいいのですが、少し、心配になっています。

思えば「情報のネットワーク」も、本来は、「人のネットワーク」に支えられるものかもしれません。「顔の見える関係」「お互いさま」があればこそ、必要な、そして生きた情報がやりとりされることになるのだと思います。「コンピューターのネットワーク」も大事ですし、その力なしには今の「情報のネットワーク」が成り立ち得ないのも事実です。しかし、とはいうもののやはり、「情報のネットワーク」の基礎には「人のネットワーク」があってもらいたいと思います。

「かるがも・ねっと」も発足から3年目に入りました。再度、原点に立ち返りながら、「かるがも」が「人のネットワーク」として充実するように努めていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

学習会の報告：2008 年度第１回（通算第 19 回）

これからの支援の場にもとめられるものは？
ーけやき広場の５年間を振り返りながらー

「けやき広場」が開設されてから５年が経ちました。この間、「かるがも・ねっと」は、「けやき広場」の活動から子育て支援の在り方を学んできました。去る７月５日に実施した本年度第１回の学習会では、開設以来、「けやき広場」で支援に携わってきた「かるがも・ねっと」の喜多路江代表に、改めて「けやき広場」の発足とその後の活動について話をしてもらい、それを手がかりに、これからの支援に求められるものを考えてみました。

ここでは、当日の喜多代表の話の内容を中心に、学習会の様子を報告します。

****

●出会いときっかけ

5年前、私がまだ二の宮保育所に勤めているとき、社会福祉協議会の鴨田さんが声をかけてくださり、保育所で「夢いっぱい子育て支援事業」を行うことになりました。当時は、「保育所で行う子育て支援って何」「保育所に子どもを通わせていない人の子育てを支援する――それは何？――」という雰囲気が、職員の中にも保護者の中にもありました。「今預かっているお子さんには迷惑をかけません。」「職員は自分が見られていると思うと、意識もするし、持っている力量をみんなだそうとするので、通常の保育にとってもプラスとなると思います」ということで、周囲を説得していきました。ですから、最初は、職員の研修としての意味が大きかったと思います。実際、それから1年かけて勉強し、保育所で子育て支援事業を始めました。出会いやきっかけは大切ですね。これがなければ、今がなかったわけですから。

●支援の必要を実感して

支援の活動は手探りでした。誰もやったことがないわけですから、自信をもってできるものではありません。場所も、保育所のなかで行うわけにはいきません。保育所にお母さんと子どもが入ってくると、預かっている子どもがお母さんのことを思い出してしまいますので、場所は保育所の外ということになります。それに、こうした活動そのものが知られていません。最初は、散歩の時、チラシを配ったり、赤ちゃんがいるところを探したりするところから始まりました。松野木公園に出て行ったり、月一回の乳児検診のときを狙って保健センターのところに出て行ったり、全部、園の外で行っていました。そこでシャボン玉、パネルシアターなどをしてみたのですが、そうしたなかである時、一人のお母さんが、「今朝から泣きっぱなしでどうしようもないのです」と言ってきました。お母さんの話をあれこれ聞いて「どれどれ、おいで」と私が赤ちゃんを抱っこしたとき、そのお母さんの口から、「女学生に戻ったみたい」という言葉がもれました。それを聞いて私たちは、「これが必要なんだ」思ったわけです。お母さんから話を聞く。相談にのる。赤ちゃんから離れる時をつくる。お母さんたちが話をする場を作る。それが支援になるのですね。そんなことから支援がはじまったのですが、いろんな親子がいました。あれこれ対応するなかで、支援というものもわかってきました。自分たちで対応できなかったり、困ってしまったりした時に助けてもらえる人や所とのコンタクトもできてきました。地域の人の理解や助けも得ることができてきました。ただ無情にも、この事業で補助金がつくのは1年だけでした。

1年経って補助金もつかなくなりますので、私は、「やめる？　どうする？」と、一緒に活動をしてきた他の保育士さんに尋ねました。そうしたところ、3人は、「できるところでやろう」と言ってくれました。役所も「補助金がなくてもよければ」と許してくれたので、「自分たちでできることをしていきます」と答えて支援を続けました。役所も、半年たったころ「予算が取れそうだ」と言ってくれて、その年の 10 月から予算もつき、「小規模子育て支援センター」として新たに1人の保育士さんをお願いすることができました。

●「けやき広場」－設置とその後の活動－

その後、私は保育園を退職することになったのですが、その時、私自身は「子育て支援を続けていくにしても、ボランティアで」と思っていました。しかし、当時の課長さんから、「電話ひとつあれば、できっかな？　こども課の奥に場所があるけど‥」と言われたのが、今日の「けやき広場」の始まりでした。

「けやき」は、「相談」と「保育」で始まりましたが、担当したのは二の宮保育所から異動してくれた保育士さんと、臨時の保育士さんの3人でした。今のように施設が整っていたわけではありませんので、「保育」は全部で「出前保育」で行いました。

「出前」といっても、最初は公民館がなかなか借りられないということがありました。ただ、ここ二の宮公民館は、私が出向いたら「なんだ、喜多先生か」と言って趣旨を理解して貸してくれました。「出前」をするには場所が必要です。ともかく、地道に場所の確保をして、「出前」の範囲を広げていきました。

「けやき」には、相談にきた人を遊ばせるための十畳くらい畳のスペースがありました。雨が降ったり、暑かったりすると「遊ばせてください」といってそこに親子がやってくる。そんな様子を見た当時の課長さんが、遊ぶスペースを広くすることを考えて、「どんな風に直したいんだ」と言ってきました。そして、私たちの意見を100%きいてくれてスペースを広くしてくれることなりました。ちょうど県が「街角すこやかルーム整備事業」という取り組みを始めたときで、そこから少し予算をいただき、おもちゃを買うことができました。また、子育てのベテランであるシルバー人材の人にもきてもらえるようになりました。出前に出ている間にも「けやき」に電話がかかってくるようになりましたので、「けやき」を一日中開けることができるような体制にしていきました。

ただ、その後の問題として、「けやき」が充実した反面、だんだんはじめからの事業である公民館での「出前」に来る親子が減ってきてしまいました。保護者の方のアンケートをとると、「北部にも出前に来てください」「南部でも出前をしてください」という要望がたくさんあったのですが、いざ行くと、そこには親子が来ていない。「けやき」に来る親子が増える反面、「出前」に来る親子が減ってしまったのです。それでも、支援も「商い」だから「あきない（飽きない）」でやっていこうということで続けてきましたが、今では「出前」に来る親子も増えてきています。大変な人数になる時もでてきています。やはり、そうした場所を必要としているのですね。

「けやき」は毎日開いていて、いつでも子どもの状況にあわせて行ける場所になっています。「けやき」には様々な地域から、みなさんやってきます。地域別でみると、やはり桜地区が多いですが、土浦や牛久や竜ヶ崎からも来ています。遠くから来る親子も含めて多くの親子が集まってくるのも、「けやき」が毎日開いているからだと思います。

ただ、その分、人手もいるし、お金もかかる。いろいろな規則に則ってする必要もあります。行きやすい環境とすること、安心してオムツ替えができること、清潔であること、おもちゃがあって遊べること……そういう条件や規則をクリアしながら、毎日やるのは大変です。でも、それをしているから、親子で来られる場所になっているのです。

「出前」にも、来てくださる親子が増えて来ました。「どこかで何かをやっているよ」となれば、“求め”はあるのですから親子は集まって来ます。「けやき」や「出前」だけではありません。「集いの広場」や「子育て休憩室」「オアシス」など、やれる人ができるところで支援をすることで、親子で行くことができる場所が増えてきます。実際にそうした場所に集まる親子も増えて来ます。「けやき」だけでなく、地域全体にそうした場が広がっていくことが重要だと思います。

●「けやき広場」から考える支援の在り方

「けやき」では相談の他に、救急法や食育に関する講習会を、毎年、実施しています。毎年、実施していると、つい、誰もが知っていることのように思えてきます。実施の仕方も疎かになりがちです。そうなってはおしまいです。「講習を受けるのは、はじめて」というお母さんがほとんどなのですから。「けやき広場」も活動を始めて5年になりますので、そのことを考えると「誰もが知っている」などと思ってしまう恐れがあります。支援する場合には、常に新鮮な気持ちで取り組むことが大事です。職員には、このことを強く言っています。

「けやき」で支援をしてきて思うのは、誰だって完璧な人はいないということです。周りから支えられて、育っていくのが母親です。母親だけではありません。指導者も支援者も周りから支えられて育っていくのです。わからないことはわからない。肩肘を張ったりしない。一人で背負い込まない。完璧ではないからこそ、周りからの支えが必要であって、支えられることで、皆、育っていくのです。だから、互いの関わり合いや仲間が重要なので

す。支援者同士の連携やネットワークが大切なのです。困ったら「助けて」と言う。それが言えずに背負い込んでばかりいたら塞ぎ込んだ状態になってしまいます。素直に「助けて」と言えること、そう言える関係が支援には大事だと思います。

それに支援では、ゆとりも大切です。支援者も時間の上でも気持ちの上でもゆとりをもって親子に接することです。元気に、呑気に笑っていた方がいい。そうすると接しているお母さんにもゆとりがでてきます。お母さんがゆとりをもつためには、一時預かりなどを利用して自分をリフレッシュすることも一つの策です。いずれにしても、ゆとりが大事です。ゆとりがあると、子どもの新たな様子も見えてきます。それが支援になっていくのです。

最近、「ガソリン代があがってしまって、これまでのように『けやき』に来られない」というお母さんがいます。そうした話を聞くと、本当につらいです。どうにかしたいと思っても、どうしようもない。やっぱり生活は、即、子育てに影響します。そんなとき思うのは、「けやき」だけでなく、そのほかにも支援の場があったり、人がいたりすることの大切さです。近くに支援の場があったり、人がいたりすることは、力になります。地域で子育てができるようにする。地域の子育ての力をつけていく。「けやき」としても、皆さんといっしょに、地域の子育ての力をつけていきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

****

喜多代表の話は、話の流れのなかで参加した皆さんにも発言していただく形で進められました。皆さんの発言をきっかけに、意見の交換も行われました。そこで話題になったことを挙げてみますと、次の通りです。

- 検診にも来なかったり、自宅から外に出て来なかったりする親子が気がかり。訪問もできないし、情報も届いているかどうかわからない。気にかかっていても、なかなか、かかわれないところがもどかしい。
- 「支援されたくありません」というお母さんもいらっしゃる。「支援」としてではなく、「一緒に考えましょう」という構えでかかわることが大事だと思う。
- 隣近所が大切であると思うが、地域のつながりがますます希薄になっている。地域としての子育ての力が落ちてしまっている。隣近所で互いに助け合って子育てをするのが無理な状況を背景に、自分たちに求められるのはどのようなことなのかということを考えなくてはならない。
- TX沿線の開発が進むなかで必要とされる支援の場がどのように確保されていくであろうか。新しく開発された地域には、まだ、何もない。そこでの子育ては心細そう。
- つくばは、車社会。車がない人は、どうするのか。
- 知っている人がいたり顔見知りになっていたりすると、支援の場に入りやすい。マタニティ・クラブや産院で子どもが生まれる前につくっている関係が、意外に大事。
- 土曜日にイベントを開くとお父さんがたくさん参加してくる。父親との触れ合い、かかわりあいを増やす意味で、土曜日が大事。
- 乳幼児家庭教育学級の相互保育などで親子が別々になる機会があるが、子どもにとっても親にとっても、それがプラスになる面とマイナスになる面がある。子どもの発達に合わせて考えることも必要。
- つくば市では、いろいろなところでいろいろな人がいろいろなことをしている。選択肢はたくさんあるのだから、子どもや自分に合った支援が選べるようにしてあげることが大事。
- きめ細かい支援の場を作り出し、心配な人をひろっていくこと、そうした事例について話し合える場を「かるがも・ねっと」のような場でつくっていくことが大事。

これまでの学習会でも、度々、登場してきた話題が今回も出されました。けやき広場の 5 年間を振り返るなかで「これから」を考える趣旨で開いた学習会ですが、「これまで」の延長に「これから」があることを実感しました。子育て支援が地道な活動であり、「かるがも・ねっと」がそこにかかわる皆さんの地道な活動に支えられているからだと思います。「これから」は、1回の学習会で考え、語ることができるようなものではありません。新たな課題や支援の在り方など、「これから」については、なお、日頃の活動のなかで考え、語りあっていくことになると思います。

学習会が終わった後、会場の後片付けをしながら、あるいはその後、公民館の外に出てから、残って語り合う皆さんがたくさんいらっしゃいました。語り合いのなかから、「これから」が見えてくることを期待したいと思います。

２００８年度定期総会について

7月5日（土）に2008年度の定期総会が開催されました。出席の会員 13 名、委任状を提出された会員が 12 名で会議は成立、喜多代表の挨拶に続いて、鴨田章子さんの進行で、次の報告・審議が行われ、すべて承認されました。

＜報告＞

会務報告・活動報告が次のようになされました。

Ⅰ．会務報告

①2008 年3月 31 日現在の会員数は 39 名（正会員 34 名、賛助会員5名）であること。

②2007 年度は、3回の世話人会を開催し、会の運営にあたったこと。

Ⅱ．活動報告

①4回の学習会を開催したこと。テーマは、「今後の学習課題を探る」「ちゃんと使える子育て支援情報～その内容と提供の仕方を考える～」「育児雑誌から今の子育てを考える」「保育園における親育ち、親育てに学ぶ」であったこと。

②第 16 号から第 19 号まで、4号の「ニュースレター」を発行したこと。

③2008 年3月 29 日（土）に、「つくば市の子育て支援を考える　子育てのわ　2007～2008」を、つくばインフォメーションセンター大会議室で開催したこと。参加者は 23 名。形山睡峰さん（かすみがうら市　無想庵菩提禅堂老師）の講演とその後の討議でもって、「子育てに欠かせないこと、譲れないこと～次世代に何を伝え、何をのこすのか～」について、理解と考察を深めたこと。

④毎月、「つくば子育てカレンダー」を編集、市の子育て支援室発行で、子育て支援情報の提供を行ったこと。

⑤市民活動センターの協力を得てホームページを作成、公開に向けて準備を行ったこと。

⑥その他

・文部科学省平成 19 年度「家庭教育支援総合推進事業」（教育委員会生涯学習課）について、「子育てサポーターリーダー養成講座」「ライフスタイルに応じた課題別子育て講座」の開催に協力したこと。

・筑波大学共生教育学（教育社会学）研究室・つくば市子育て支援室実施の「つくば市の子育て・子育て支援関連サークル・団体調査」に協力したこと。

・つくば市『つくば子育てべんり帳』の編集に協力したこと。

・関連機関団体開催のイベントに協力したこと。

・住友生命「未来を築く子育てプロジェクト　子育て支援活動の表彰」に、つくば市子育て支援室からの推薦で応募したこと（結果：選外）。

＜審議＞

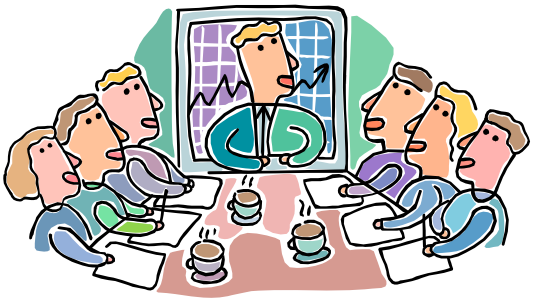
次いで、次のことが審議され、承認されました。

Ⅰ．2007 年度決算及び監査報告について

監査の大内京子さん、丹羽絢子さんの監査報告とともに、別表1の決算が承認されました。

Ⅱ．2008 年度活動計画について

次の活動計画が承認されました。



・「学習会」の開催

・「ニュースレター」の発行

・「つくば市子育てカレンダー」の編集（発行：つくば市こども課子育て支援室）

・「かるがも・ねっと」ホームページによる情報提供

・「つくば市の子育て支援を考える　子育てのわ　2008」の開催

・子育て・子育て支援関連サークル・団体情報更新のための資源調査に協力

・その他、関係団体・サークル、つくば市等の実施する子育て支援事業に対する協力

III. 2008 年度予算について

別表2の予算が承認されました。

IV. 2008 年度役員について

別表3の役員が承認されました。なお、世話人に関しては、別表にお名前のある方に加えて、必要に応じてほかの方にも世話人をお願いして会の運営にあたることになりました。

別表１：2007 年度決算

＜収入＞

費目		予算額	決算額	予算－決算	摘　　要
会費収入	正会員	60,000	60,000	±0	当該年度　2,000 円×30 名
	賛助会員	15,000	19,000	+4,000	当該年度　3,000 円×3名 10,000 円×1名
参加費収入		20,000	11,500	-8,500	子育て支援を考える 500 円×23 名
保育料収入		7,500	0	-7,500	子育て支援を考える／学習会
助成金		0	25,000	+25,000	茨城県ボランティア基金助成金
前年度繰越金		11,463	11,463	±0	
収入合計①		113,963	126,963	+13,000	

＜支出＞

費目	予算額	決算額	予算－決算	摘　　要
講師謝金	15,000	21,000	-6,000	子育て支援を考える(含,駐車料金)
保育謝金	25,000	0	+25,000	子育て支援を考える／学習会
通信費	45,000	41,480	+3,520	ニュースレター送付／学習会案内送付／その他通信連絡
印刷費	5,000	0	+5,000	諸案内／学習会資料
物品費	2,000	0	+2,000	文具･雑貨
会合費	2,000	1,575	+425	子育て支援を考える 講師打合せ
保険料	2,500	1,500	+1,000	ボランティア保険 07,08 年度分
契約料	6,000	0	+6,000	ホームページ プロバイダ契約
予備費	11,463	0	+11,463	
支出合計②	113,963	65,555	48,408	

収入合計①	126,963
支出合計②	65,555
次年度繰越金(①-②)	61,408

別表２：2008 年度予算

＜収入＞

科目	細目	2008 年度 予算額	対前年度 増減
会 費 収 入	正会員（当該年度　2,000 円×30 名）	60,000	±0
	賛助会員（当該年度　3,000 円×5名）	15,000	±0
参加費収入	「子育て支援を考える 2008」500 円×40 名	20,000	±0
保育料収入	500 円×15 名	7,500	±0
助成金		―	―
前年度繰越金		61,408	+49,945
収入合計		163,908	+49,945

＜支出＞

科目	細目	2008 年度 予算額	対前年度 増減
講師謝金	子育て支援を考える 2008	50,000	+35,000
保育謝金	子育て支援を考える／学習会	25,000	±0
通信費	ニュースレター送付／学習会案内送付	45,000	±0
印刷費	諸案内／学習会資料	5,000	±0
物品費	文具／雑貨／封筒（印刷）	15,000	+13,000
会合費	子育て支援を考える 2008 等	2,000	±0
保険料	ボランティア保険,イベント保険	2,500	±0
契約料	インターネット プロバイダ(HP 掲載)	6,000	±0
役務謝金	ホームページ作成	8,000	+8,000
予備費		5,408	-6,055
支出合計		163,908	+49,945

別表３：2008 年度役員

･代表	喜多路江(つくば市地域子育て支援センター)
･副代表	星埜祥子(子育て休憩室) 飯田浩之(筑波大学)
･世話人	五十嵐泉(自主保育コロボックル)　森　幸子 岩村一代(つくば市社会教育指導員)　矢野智子 小島範子(つくば市主任児童委員)　鷲田美加(特定非営利法人　ままとーん) 冨岡紀子(つくば市社会教育指導員) 永長一乃(ﾍﾞﾋﾞｰﾏｯｻｰｼﾞ研究所親子ｻｰｸﾙ)
･監査	大内京子(つくば市民生委員･主任児童委員) 丹羽絢子（つくば地区更生保護女性会）

活用しよう『つくば子育てべんり帳』

前号で『つくば子育てべんり帳』が発行されたことをお伝えしました。市の子育て支援室が、「かるがも・ねっと」のメンバーでもある「ままとーん」の編集協力を得て発行したもので、広く、子育て中の保護者の皆さんに配布されています。多分、皆さまには、既に手にとってご覧いただけているものと思います。

ところで、この『べんり帳』ですが、子育て中の保護者の皆さんにとって「便利帳」であるだけでなく、子育ての支援者にとっても「便利帳」であることに気づきました。「子育て支援」は医療、福祉、教育、防犯、町づくり等々、多岐にわたる「総合支援」です。その仕組みや方法など、学んでも学び足らないことばかりです。しかも、地域に密着したかたちでそれを学ぶとなると、なかなか、その機会がありません。

『べんり帳』には、多岐にわたる支援情報が、つくば市という地域に即するかたちで掲載されています。市の「支援室」の発行ということもあって、つくば市で子育てをしていく上での「ミニマム・エッセンシャルズ（基本の基本）」となっています。「ままとーん」によって、それが、子育ての担い手の視点から、身近に豊かに編集されています。

お父さんやお母さんたちから、子育てについて尋ねられることもあると思います。その時に、『べんり帳』に書かれていることを知っていると的確に答えることができそうです。また、支援についての視野を広げることもできそうです。支援者にとっても「便利」な『便利帳』の活用をお勧めします。

定着した「つくば子育てカレンダー」

「つくば子育てカレンダー」を子育て中の親子の皆さんにお届けするようになって1年8カ月になります。お気づきかと思いますが、この「カレンダー」は、かるがも・ねっとと筑波大学共生教育学（教育社会学）研究室が「編集」し、市の子育て支援室が「発行」しています。市民と行政が共に手を携えてこのような試みを行っていけるものかどうか、正直なところ当初は不安もありましたし、手さぐりで進めたところもありました。

子育て中の親子にとって、情報の“出所”が市民であろうと行政であろうと「どうでもいいこと」なのかもしれません。いつ、どこに行けば、仲間に会えるか、話ができるか、相談にのってもらえるか……それを知ることが大事なのです。そうした親子にとって、市民の情報も行政の情報も一つになっていればきっと便利。「カレンダー」の編集・発行は、そんな考えのなかで始まりました。

次月のカレンダーの編集に向けて、毎月 10 日前後に、市の子育て支援室からけやき広場を中心にした市の子育て情報が編集担当のところに送られてきます。同じ頃、かるがも・ねっとのメンバーを中心にした市民の子育て支援情報も編集担当のところに届きます。両者を一つ紙面に収めるのが編集の仕事です。あらかじめ、年間のスケジュールを教えてくださっている機関や団体・サークルもあります。子育て中の親子のお出かけに少しでもお役に立てば・・・そんな思いのなかで紙面への割付の作業が進みます。

先日、常置していただいている市民活動センターから、「毎月、決まって、取りにくる親子が増えてきました」という知らせをいただきました。「カレンダーを見て、楽しく予定を立てています」という声も聞こえてきています。

そのような声を聞くことができるのも、毎月、続けて編集・発行していればこそ、です。

情報を掲載している機関・団体・サークルの数も増えてきました。先月（9月号）からは、保育所の保育交流も掲載するようになりました。限られた紙面でどこまで情報をお届けできるかといった問題もありますが、さらに豊かな情報を「カレンダー」に掲載していきたいと思っています。子育て中の親子の役に立ちそうな子育て情報をお寄せください。宛て先は、以下の通りです。

FAX ： 029-853-4599　　筑波大学共生教育学(教育社会学)研究室
電子メール：karugamo_net@yahoo.co.jp

※情報は、前の月の 10 日までにお届けください。

※スペースが限られています。お知らせいただいた情報を短くさせていただくこともあります。

♡♡　お知らせ　♡♡

子育てひろば研修セミナー＜茨城開催＞
－ひろばがつなぐ、いばらきの子育て－　　開催のお知らせ

●目的：子育て支援拠点の役割について考え、県内の多彩な子育て支援拠点（地域子育て支援センター、児童館、つどいの広場など）がお互いの活動を知ることで、各々の実践に活かせるようなつながりを紡ぐことを目的とします。
●開催日：10 月 4 日（土）10:00～16:00
●会　場：つくば国際会議場エポカルつくば
●定　員：100 名（事前申込み）
●対　象：子育て支援に関わる実践者・行政関係者・研究者・子育て支援に関心のある人。
●プログラム：
　１．基調講演「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」
　　厚生労働省少子化対策企画室
　２．パネルディスカッション
　「子育てひろばのこれから」～親の力を引き出すために、子育てひろばができること～
　　コーディネーター　鷲田美加さん　NPO 法人ままとーん 代表理事
　　パネリスト　　奥山千鶴子さん　NPO 法人びーのびーの 理事長
　　野口比呂美さん　NPO 法人やまがた育児サークルランド 代表
　　坂本純子さん　NPO 法人新座子育てネットワーク 代表理事
　３．分科会「親の力を引き出す、ひろばの実践」
　　「基礎編」子育てひろばのいろんなカタチ
　　「実践編」課題克服とスタッフのスキルアップ
　　「応用編」地域とつながる子育てひろば運営
●参加費：無料
●申込み〆切：9 月 22 日（月）
●託児あり（要問合せ）
●申込みや詳細につきましては、ままとーん HP をご覧いただくかお電話にてお問い合わせください。
　　ＮＰＯ法人ままとーん
　　HP　http：// mamatone.org　　TEL／FAX：029－838－5080
・主催／(財)こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
・後援／厚生労働省・全国社会福祉協議会・茨城県・つくば市
・協力／「子育てひろば研修セミナー茨城開催」実行委員・ＮＰＯ法人ままとーん

****

『眠り』の脳科学　― 睡眠は子どもの心と体の栄養素 ―　　開催のお知らせ

　子どもは、食べて遊び学び眠る存在です。睡眠･生活ﾘｽﾞﾑが、神経回路の形成とホルモン（ﾒﾗﾄﾆﾝ･ｾﾛﾄﾆﾝ）の分泌とどのように関係し、いかに人間の成長や精神安定に影響があるかをお話しいただきます。『子どもの健やかな成長』のため大人の生活を見直す、そして皆さんとごいっしょに考え実践してゆく機会にしたいと思います。
●日時：11 月 16 日（日）13：00～15：00（12：30 開場）
●会場：筑波大学共同利用棟 B 講義室 2（2階建の2階）
●参加費：大人 1000 円　大学生 800 円
●講　師：神山潤さん（東京北社会保険病院　院長）
●主　催：のびのび子育ち･楽しい子育てを考える会（育ちの会）
　　連絡先：矢野智子（090-4728-6498）

****

「かるがも・ねっと」がめざすもの

「かるがも･ねっと」が目指すのは、つくば市で育つ子どもたちが、たくさんの人とかかわりながら、健やかに豊かに育つこと、また、つくば市で子どもを育てている人たちが、お互いに子育ての力をつけていくことです。

そのために「かるがも･ねっと」は、子育てをしている人たちの間、子育てを支える人たちの間、子育てをしている人たちと支える人たちの間をつないで「子育ての“わ”」をつくります。さらには市民と行政との間をつなぐことで「子育ての“わ”」を広げていきます。そして、子どもの育ちや子育てを支え、見守っていく地域づくりを目指します。

「かるがも･ねっと」は、

子育てをしている人たちが、必要な情報や支援を得ることができるように…

子育て支援に関わる人たちが、交流･連携して支援の力をつけていくために…

- 互いに「顔の見える関係」をつくって、協力し合います。
- つくば市における子育て･子育て支援の「今」を学び、意見交換をする「学習会」を開催します。
- 学習会の報告や、つくば市における子育て･子育て支援の様子を掲載した「ニュースレター」を発行します。
- つくば市子育て支援室と協働して「つくば子育てカレンダー」を編集･発行します。
- 子育て･子育て支援関連団体･サークルなど、子育て支援のための資源を調査し、情報の提供を行います。
- そのほか、子育て･子育て支援に関する情報の発信を目指します。

子育て支援のつながりを、より充実させるために…

- 会員同士の交流や情報交換の場などを企画します。

入会については、「かるがも･ねっと」ホームページ（http://tsukuba-karugamo.net/index.html）をご覧くださるか、＜連絡先＞にお問い合わせください。

＜会員の皆さま＞

2008 年度会費納入のお願い

「かるがも･ねっと」は、皆さまの会費によって運営されています。既に、2008 年度会費の納入をお願いしてありますが、お忘れの方は、よろしくお納めくださいますようお願いいたします。会費は、主に、「子育てのわ」を広げるべく、会の内外の皆さまに「ニュースレター」をお届けするのに使っております。納入先など、ご不明な点は、「かるがも･ねっと」の連絡先まで、お問い合わせください。

****

＊このニュースレターは、会の活動をご存じいただくために、会員の他、広く、つくば市で子育て支援に携わっている皆さまに、無料でお届けしています。

発行：つくば市子育て支援ネットワーク　**かるがも・ねっと**

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークです。

発行日：2008 年９月 15 日　　編集：飯田浩之・田野井真美

連絡先：筑波大学人間総合科学研究科　ヒューマン　共生教育学（教育社会学）研究室

〒305-8577 茨城県つくば市天王台１丁目１－１　　筑波大学総合研究棟Ｄ棟

【E-mail】　**karugamo_net@yahoo.co.jp**

【FAX】　029-853-4599

【ＨＰ】　http://tsukuba-karugamo.net/index.html